

## 人種差別にかんして話を聴きあう際の手順

2007年12月、北米東海岸リーダー研修講座におけるティム・ジャキンスの話<sup>1</sup>:(1)人種差別について、有色の人たちに向けた話と、(2)共に闘う支援者(アライ)であることについて、白人の人たちに向けた話

### (1) 有色の人たちに向けた話 人種差別について

抑圧者側の傷の要素は、腐食作用があり、人々に悪影響を及ぼします。人が抑圧者側の傷の要素を実行すると、それは広く悪影響を与え、実行していない、もしくは実行しないことを学んだ状況であってさえも、すべての人に互いに対する不安を抱かせてしまいます。私たちすべてがこの傷の要素を持っているので、互いをあえて頼りにしません。抑圧者の傷が向けられた子ども時代に、私たちは用心深さを学びました。今や私たちはこの傷の要素の保有者で、同じ集団にいる者どうしであってさえも、この傷によって互いに孤立させられています。この傷の要素を持っているという事実が、私たちを信用できない人にさせ、また私たちが人を信用することを難しくさせています。

私たちの意図について話しているのではありません。皆、すばらしい意図があります。私たちの知性、あるいは私たちができてきたことについて話しているのでもありません。そこにあり続けるこのちょっとした非理性的な考えと、私たちがそれを実行してしまいがちなことについて話しています。この傷をさらに隠さなければならず、そして隠しているためにそれに取りくむ機会がなくなればなくなるほど、私たちの中にますます留まりつづけ、私たちは互いに対してますます不安を抱きつづけます。

私たちは傷の要素に立ち戻り、見つめつづけ、私たちの祖先の物語や家族とともに体験したこと、あるいは、もし身近に上の世代の人たちがいるとしたらその人たちのことを語りつづけなければなりません。そしてこうした物語や体験が私たちの心にどのような影響を与えたのか、私たちがこんなに幅広い生活を手にするために乗り越えなければならなかったものは何か、私たちがいまだ完全に感情を解放し得ていないことは何か、を見ていかなければなりません。

私たちの心を取り戻そうとするこうした闘いは重要です。この闘いに挑むことによって、あなたは白人の人たちにかんするより広い視野を得ることになるでしょう。なぜなら、人が社会において支配者集団の一員であるときに抑圧者の傷は大きくそびえ立ち、この同じ集団の他の人によって、その人の抑圧者の要素が、強力に、悪意を持って、害ある方法で、実行されるのを、人は目撃します。その人がけっして自分自身にはさせないことを、他の人が実行しているのを人は目にします。その人は、他の人が自分の傷の要素を実行するのを目の当たりにします。それはとてつもなく大きな再刺激で、その傷の要素を持つすべての人に罪悪感を持たせます。彼らは、実行はしなかった。けれども、実行し得たことを知っています。彼らはその傷の要素が自分たちの心の中にあることを自覚します。

これは、私たち白人がこの上なくいい人であろうとするとときに、どんよりとした姿になってしまう一例です(笑い)。つまり、白人ではない、そして抑圧者の要素を持っていないかのように振るまおうとする。しかし、私たちは持っています。この抑圧者の要素について取りくみ、公にし、感情を解放する機会を得るまでは、どんよりとした姿のままそこに必死にしがみつき、傷を抑えこみ、できるだけ人目に触れないようにすることに精一杯で、そしてそうすることで私たちの人間性の一部を犠牲にしています。これほどまで懸命に傷を落ち着かせようとしている場合は、完全に生きていくということにはなりません。物事はぎこちなくなります。

こうした事柄にかかわらず、白人の人たち、あなたたち、そして抑圧者の要素を持つすべての人たち、それは私たちすべてですが、人は十分に人間的に機能し得ます。私たちは単にこの傷に対する弱さを持っているにすぎません。それは私たちの心を損ないません。ただ、それは私たちの足をもたつかせ、頻繁につまずかせ、すべてを混乱させます。それは私たちがとても注意深く築こうとしてきたすべてを揺さぶります。

経験を積んだたくさんの白人のコウ・カウンセラーがもうすぐここに現れます。でもいろいろな意味で、現れないことをあなたたちは願っていますよね。個々の人がどうだからというわけではなくて。でも、これから

<sup>1</sup> Tim Jackins 再評価カウンセリングの国際照会者

加わる白人リーダーたちの中に、あなたにとって最高のアライがいます。彼らはかつてない最高の資源です。その理由は個人にあるのではなく、彼らの側から、この大きい、混乱した、人種差別に関連する一連の傷が持ち込まれるからであり、そして、彼らがあなたの側にあるその傷をあなたに感じさせるからです。

ここに持ち込まれる傷から目を反らす道はありません。逃れようとすることは助けにはなりません。しばらくしてここに現れる白人の人たちは、多くの場合、その傷を人目につかない場所に置いておく以外に何をしたらいいのか分かりません。この方法を取らなければならない人たちは徐々に減っていますが、多くの人はまだそうしており、そしてそれはうまくいきません。あなたはおそらく、数人を除いてすべての白人の人たちに消えてもらいたいでしょうし、その方向に引き寄せられるか、もしくは彼らの世話をする傾向にあるでしょう。そのどちらの対応もさほど役には立ちません。

あなたは彼らを必要としています。率直に言ったほうがいいかもしれません。あなたが、彼らを必要としています。あなたがここで彼らを必要とし、あなたが彼らをアライとして必要とし、彼らが抑圧者の要素に対して闘いきることを必要とし、彼らがあなたのために闘うことを必要としています。彼らはあなたを必要としています。しかし、彼らは、あなたが彼らの世話をしたり、彼らがかつとにならないよう絶えず問題を処理することによって彼らが彼らの傷の要素を直視しないですむようにしたりすることを、求めてはしません。事が現れたら、それはそれで構いません。もし私たちが傷の要素を信じたり、傷に従って行動したりする場合は問題ですが、傷がそこにないかのように振るまう必要はありません。私たちは傷を隠さなくていいのです。私たちはそうするよりも、うまく闘える地点にいます。これから合流する白人リーダーたちと一緒にしなければならないことは、彼らに何をすべきかをあなたが伝えることです。なぜなら、彼らは、彼らがつねに試してきた方法で懸命にいい人であろうとする以外、何をしたらいいかがわからないからです。彼らが試してきた方法は、新しく鋭い考えをそうたくさんは含んでいません。

彼らにどうしてほしいですか？あなたは彼らに、あなたがあなた自身のために闘うことを手伝ってほしいのではないかと思います。あなたは彼らに、あなた自身のために闘うようにあなたを励まして支えてほしい。彼らには、あなたを強くそこに促し、そこであなたの支援者になってほしい。彼らは、あなた独りで取りくむのがとても難しい事柄についてあなたが取りくめるよう助ける必要があります。彼らにとっては、多くの恐怖と向きあうこととなります。なぜなら、彼らはあなたが闘うよう望んではいるけれども、だれかが彼らに対して突然怒り出すことをとても恐れていて、おそらくその原因となる人種差別について、それが起きないように努めるからです。怒るのを支えるよう彼らに頼んでください。それは彼らがもっとも恐れることにととても近いのですが、あなたが要求することで、傷と人がはっきり両側に区別されることとなります。彼らは、あなたがあなたの恐怖に立ち向かおうとする闘いを支えるために、彼ら自身の恐怖と向きあわなくてはなりません。

あなたが怒るのを支えてほしいと白人リーダーたちに要求しなければなりません。これが彼らにできることで、あなたの人生を変えていくことで、人種差別に対抗する闘いを推し進めるために必要なことだと、彼らに伝えなければなりません。彼らは、多少の怒りが彼らに向かってくるかもしれないとしても、あなたが怒るのを手助けしなければなりません。彼らは、あなたがどれほど注意深くあったとしても再刺激される可能性があります。だから注意深くなりすぎないでください。

彼らには、自分の傷に取りくむだけでなく、人種差別の影響に対抗してあなたの味方となり、すべての力、知性、思いやりを持って闘うという積極的な役割があることが伝えられ、示される必要があります。彼らは、より大きな役割を担わなければなりません。さもないと、物事は混乱します。単に彼らの傷に取りくむ以上に、より幅広い視野に立ったより大きな挑戦が求められています。

これは、あなたのアライでありたいと願い、そうなるために喜んで闘おうと思っている人たちに対して、あなたが示せると私が思うもっとも明確な挑戦のひとつです。個々の白人の人たちが、重い題材に向きあう準備がどれだけできているのかは、はっきりしません。これは、私たち一人一人が、ひるまず、闘いは不可能だと感じるのをやめ、そして闘いに挑む瞬間がいつ、どのように訪れるかは、はっきりしないのと同じです。

その瞬間がいつ訪れて、皆さんがそれをどう予測するかは、私にはわかりません。しかし、皆がそこにたどりつくことは、私にはわかります。これは、人が、待つ、待ちわびて、傷によるだれかの動揺に共感したりするかわりに、「あなたにできるかどうか、やってみせてよ」と言う助けになることもわかります。多くの人にとって、これは「あなたが打ちのめされるかどうかみてみましょう」ということです。

厳密にどうしたらいいかはわかりません。でも、すでにあなたのアライである人たちのためには、どうしたらいいかを見つけ出すことはできるでしょう。あなたがまったく確信を持ってない人たちのためとなると、難しくなるでしょうし、私が示せる助言はそう多くはありません。でも、それは同じだと考えています。ここに現れる白人一人一人が持つ素晴らしい意図と意志について、私はまったく疑いを持っていません。それについては心配する必要はありません。ただし、混乱の度合については別問題です。これはとても個人的な事柄で(笑い)、この闘いをどれほどはっきりと述べられるかについても同様です。私はこの闘い全体をまとめて彼らに話します。私が彼らに会ったら、私はこの闘いを詳しく説明して彼らの心の中に入り込ませるようにします。私はこうした考えが彼らの心に定着するように、何回かミニセッションの機会をつくるつもりです。

しかし、彼らが恐怖にもかかわらず、あなたのために全力を注いで闘おうとするかどうかは、あなたが白人の彼らに対し、彼らが最善を尽くしてくれるという高い期待を持って「私のために、あなたにはこれをしてほしい」と自ら言い出すかにかかっています。彼らが完璧にこなすと信じる必要はありません。彼らが完璧にこなさないために浮かび上がってくるあなたの傷があるでしょう。しかしここから、物事は前に進んでいくと私は思います。

## (2) 白人の人たちに向けた話 アライであることについて

あなたたちに課題があります。私たちの取組みの中心に人種差別を据えた場合、私たちは歩みつづけ、新しいことを見つけだし、新たな行動をとる必要があります。人種差別について考え、本質に立って感情を解放し、行動していくように自らを後押ししなければなりません。

私は3つのそれぞれ異なる分野において、私たち全員を後押ししてきました。一つめは、自分自身を悪く思うのはすべて、つねに傷であり、よって注意を払う必要がないと認識することです。自分を悪く思う感情を吐きだすつもりでなければ、なぜそこに心を向けるのですか？二つめは分断と孤立です。私たちはかつてない最良の関係性を持っていますが、それは私たちが持ち得るはずだったものとは違います。私たちは分断と孤立を否定する効率的な方法について、まだ多くを知りません。分断と孤立は、私たちがその中で育ち、我慢する以外どうしていいのかわからなかったのでそうするしかなかったものです。私たちはそこに挑戦することができます。人がつながりあい、近づきあい、互いに理解しあおうとする方法は数限りなくあり、私たちはそれを掘り起こし、見つけだします。三つめは、落胆です。子ども時代に何度となく打ち負かされ、その結果として生じた傷の記憶について感情を解放する機会がこれまではありませんでした。このため、何かを試みるときはいつでも、自分とともに何十年にもおよぶ敗北の歴史を引きずり出してしまう（笑い）。これは、たとえどんなに陽気にあろうとしても、私たちの活動の一部に漂ってしまう空気感なのです（笑い）。

今話したこの3つの分野すべてに、立ち戻りましょう。これらはとても重要で、とくに最後に指摘した落胆は重要です。いかなる落胆もつねに過去のものだと理解できます（現在についてはあり得ず、過去のものに違いありません）。しかし、まだ私たちは混乱しています。難しい問題があり、負ける闘いもありますが、これらはまったく落胆とは異なります。落胆に立ち向かうのには、もっとゆっくりやらなければならない、周到に準備しなければならない、もっと理解しなければならない、と思うようなすべての感情が、私たちにそれが落胆だと信じさせてしまいます。こうした感情のせいで、私たちが欲しいと分かっているすべてについて混乱し、そして私たちにはおそらくできるだろうと薄々感じているすべてについて、混乱してしまいます。待つことを正当化しようとするすべてが、否定されなければなりません。

あるとき、私たちは次のように思い至りました。何かを完全に成し遂げるためには人種差別に立ち向かわざるを得ない。人種差別を放置したままで、いかなる分野でも十分に心を解放することは不可能である。人種差別に対する闘いのどんな部分であれそれをあきらめたり、だれ一人でも完全にゆるぎないアライを持つことをあきらめたりすることは、あらゆる場における私たちの努力を無効にする。だから、私たちは人種差別に立ち向かうことにしました。そして、そこにこだわり、考え、話を聴きあって感情を解放してきました。数多くの素晴らしい人たちが多くを知り、この分野でリーダーシップをとっています。これはかなり感動的です。が、それと同時に私たちはまだ怖がり、ひるみ、躊躇（ちゅうちょ）し、そしてこの決断を十分に支えていく方法

について確信を持ってないことがしばしばあります。

問題は、人種差別にどう取りくむか、あるいはどう善意の意図を持って行うか、ではなく、自分の課題に自分自身を向きあわせる取組みをどう実行に移し、同時に、有色の人たちの闘いに対してさらなる資源と可能性をどのように提供するか、ということです。私が考えついた最も良い方法は、私たち一人一人が自分自身のために闘うことがどれほど難しいかを認識することと関係しています。自分のための闘いを始めようと思うときに感じる限界がありますね。私たちのような人種差別主義の社会で生きる有色人種であることを想像してみてください。その社会では、生き抜くために、あなたに向かってくる不当な扱いに口をつぐみ、あらゆる制度・機関から繰り返し抑圧が加えられ、それについて黙っていなければなりません。その社会にいるほとんどの人たちは、彼らが露骨に人種差別を実行していないかぎり、人種差別の抑圧について押し黙り、無視し、あたかもそれがそこにはないかのように振るまいます。ここで考えてほしいのは、その立場からあなたは自分のためにどう闘おうとするか、です。されてきたこと、言われてきたこと、暗に伝えられてきたこと、そのすべてに反して、あなたには闘う価値がある、とどうやって決断するでしょうか？闘うのは私ひとりではないのだ、という希望のかけらをどうやって手にするのでしょうか？ある意味、これは私たちが直面する闘いと変わりません。しかし、大きく違う性質があります。私たちは彼らの闘いがどのようなものなのかを理解するよう努める必要があります。

問題は、私たちと同じように、しかし私たちとは異なった傷の記憶を抱えた人たちに対して、彼らが実際に自分のために闘うための十分な資源があるように感じられるほどの、十分な支援をどのようにして提供していくかです。これは、私たちすべてにとっての闘いの場です。私たちの心を解放させるために、傷にどのように取りくみますか？傷を突っつき、傷の隅っこを引きちぎり、穏やかに聴きあう中で、ゆっくりと、ゆっくりと傷の端を削り取ることでありませぬ。それももうまくいきます。しかし、たぶんこれは、私たちができるレベルよりかなり低いでしょう。話しを聴きあう中で、何かが解放され、これまでとは大きく違って物事が生き生きとするような場や瞬間があったと思いますが、こうした機会を意図的に手にする方法を知りませぬ。そこに導く状況の創り出し方がわかりませぬ。しかし、それが可能であることは知っています。私たちは、私たちが手にする生き生きした生（せい）の感覚-闘いの影響ではなく、闘いそのものだという感覚-を知っています。

これは、本質に立ち感情の解放を促す十分な言葉かけや態度があるか、また十分な資源があるか、そこに十分な知性があるか、つまり私たち自身と私たちの周りで十分な知性が働いているか、に関係していることがわかります。ですから、他のいかなる場よりも、こうしたたくさんの知性が集う研修講座でそれが起きます。可能なことについての現実を見て、そして他の人にもその現実を見せることができる十分な知性が働いています。人が、研修講座で前に出て激しく感情を吐き出し、その人が持つ傷の重要な部分を取り除いていくのを見たならば、以前はなかったけれども次の聴きあう時間でどのようにその可能性があるのかがわかりますね。

どのように、この状況をお互いのために理解し、構築し、そしてこれを人種差別が横たわる境界線を越えてどう成し遂げればいいのか？私たちの恐怖にかかわらず、分断の感情にかかわらず、また、これまでたいして人の役には立ててこなかった、間違いばかりするだろう、人が自分に対して怒りだすだろう、といった感情にかかわらず、だれかにとってこれほどまでに大きな支援者にどのようにしてなろうとするのでしょうか？こうした否定的な感情にかかわらず、どのように私たちは支援者になれるのでしょうか？できるのでしょうか？もちろん、できます。事実、ある意味、自分自身のためよりも、だれかのために闘う方が簡単です。だれか他の人のために闘うことにまつわる混乱がどのようなものであろうと、自分のための闘いの方がより混乱します。

これが、この研修講座であなたに示したい課題です。つまり、話を聴きあう際は、とくに有色の人との場合は、それくらい強固な支援を喜んで提供してください。有色の人たちには、彼らからあなたたち白人の人たちに支援を頼み、彼らのために必要だから支援してほしいと伝えるよう、すでに提案してあります。これは大きな要請です。頼むことによって、大きな傷の記憶に対抗する大いなる機会を手にします。人種差別を前提にして、彼らが質問をまとめそしてあなたの顔を見つめるとき、よく考えている人がそこにいると彼らがどうやって自覚できますか？そして彼らが十分に安心して彼ら自身のために闘えるようにするために、彼らの要請に応え、実際に懸命に考え、自らの傷と対峙して闘い、そばから消えない人がいるかどうか、を彼らがどうやって

自覚できますか？彼らはどのようにして、私たちの面倒を見ることばかり考えるのをやめ、あるいは安全かどうかをつねに確認するのをやめ、または今までしなければならなかったことをやめるでしょうか？彼らが私たちのことを考えたり、私たちについて注意深くなったりするのをやめ、この闘いにおいて、私たちが彼らの側に立つと彼らが思えるほど十分な資源を与えることが私たちにできるでしょうか？闘っている彼らを支えるために、自らの恐怖とためらいと疑いに向き合う用意が私たちにはある、と示すことができるでしょうか？私たちにできると思います。とてもつらい大変な時期があると思いますが（笑い）、それは私たちが向き合う必要があるものに、私たちを向き合わせてくれると思います。

人種差別を終わらせる闘いの中心に私たちはいるべきです。有色の人たちがまさにそうであるように、私たちがその中心にいなければなりません。これは、現実に行われているこの闘いに私たちが関わるべきだという意味です。有色の人たちがうまくやっていくのを願い、遠くから支援するだけではいられません。有色の人たちが取りくむ必要のあるどんな闘いにも挑んでいけるよう支援するために、その場に加わり、自分の問題と懸命に格闘しなければなりません。

取り掛かろうとするすべての新しいもののように、それは学ばなければならないものです。やり方をすでに知っているべきものではありません。初めから完全に成し得るものではありません。最初に私が話した三つの分野を、私たちに経験させるものでもあります。それは、私たちが自分を悪く感じる場所。思い当たりますね？（笑い）私たちの関係性。思い当たりますね？落胆。思い当たりますね？この取組みを進めていくためには、こうした傷の集合体に挑み、こうした傷は意味をなさず、またその傷によって私たちの人生が左右されるのは理不尽で、さらに傷から出される指示とは違うことが私たちにできる、と決断しなければなりません。

あなたたちには、それができると思います。十分に話を聴きあい、傷ついた感情を解放させてきたのを知っています。あなたたちはその決断が欲しいし、そうするほど十分に賢いことを知っています。そこを問題にしてはいません。問題は、どれほどすばやく混乱から抜け出せるかです。私が思うに、落胆が最も私たちの歩みを止めてしまうものです。私たちは本質に立って傷ついた感情を解放し、それが消えてしまうはるか前に、落胆を信じることをやめると決断することができます。

一度、決断したなら、ここにいる有色の人たちへそれを提供しなければなりません。これはしつこく迫ることではありません。隠すことなく資源を提供し、その資源が吟味され、検討され、疑われ、そしてある時点で受け入れられる時間を与えることです。怖がらず、そしてあせらないでください。私たちの側の闘いは、資源を使える状態にしておくことと、そうできるように私たちの傷に取りくむことです。使うよう強制することではありません。私たちがいつもしようとしているように、状況を整えておくことです。そうすれば、人はその人を押しとどめていたためらいと疑いから心を引っぱり出して、提供された資源を見つめ、前に進む決断をし、その資源を使うことができます。

本当にたくさんの方があります。ときには、穏やかに、静かに、そして遠くから。ときには、直接的なこともあるでしょう。いつものように、見極めなければなりません（笑い）。この特別な状況は、私たちがすでに向きあい方を知っている状況とはちょっと違います。ですから、以前に思いついた事柄はすばらしいデータを残してくれましたが、これからは十分ではありません。もう一度最初から向きあい方を学び、考えつづけなければなりません。

もし、あなたの支援が受け入れられなくても、心配したり、めげたりしないでください。あなたの支援が活用されるほど十分に信頼されるまでには、一日、一週間、あるいは一年そこに留め置かれ、人種差別について感情を解放しつづけることによって改善される必要があるかもしれません。私たちの役割で重要なのは、つまり私たちの役割で必要不可欠な点は、有色の人たちの闘いのためにそこに居つづけ、活用されるために私たちの資源すべてを活用可能にしておくこと、そして自分たちの傷に対する闘いをさらに、さらに、推し進めていくことです。

Steps in Co-counseling on Racism

プレゼントタイム 2008 年 4 月号 3 - 7 ページより

Tim Jackins

翻訳 志堅原郁子

この文章の著作権はラショナルアイランド社にあります（翻訳 2009 年。原文 2008 年）。

この翻訳はあくまで草稿として扱ってください